

15th APRU Multi-Hazards Symposium 2019

参加報告書 (Participation Report)

日にち/ Date :2019年11月4日

所属/ Affiliation :人間科学研究科

氏名/ Name :高 欣

出張期間 (Period of trip)	2019年10月27日—11月3日
開催期間 (Period of Program)	2019年10月29日—31日
開催場所 (Place)	Tecnológico de Monterrey, メキシコシティ, メキシコ
開催規模 (Scale)	参加国数(Number of participating countries)不明 参加者数(Number of participants)約100人
プログラムの 背景・目的 (Background and the objective of the meeting)	世界における40%の自然災害及び90%の地震はアジア太平洋地域で発生します。災害地域では、国境を越えて、協力と知識の共有は有効な減災及び復興にとって不可欠です。APRUはメンバーやパートナーと協力することを通して、研究者、政策リーダー、政府とコミュニティが防災減災・復興を促進するため、どのように協力できるかを模索します。仙台防災枠組の影響を拡大するのみならず、専門知識の共有により、災害に最も脆弱な国々のリスクを削減して、より良い回復力を持つアジア太平洋地域を構築することを目的にします。
プログラム 内 容 (Program Contents)	APRU Multi-Hazards Symposium は毎年 APRU が主催する災害分野の研究者が一同に集う国際学会であり、今回で15回目の開催となります。今回のシンポジウムでは、地方、国家、グローバルにおける災害と発展の間の相互関係を検討しながら、持続可能な社会発展における最適な減災 (DRR) 方法への理解に焦点を当てました。"仙台防災枠組"と"2030 アジェンダ 持続可能な発展"における大学の役割も探りました。
所 感 (Feedback on the Program)	今回メキシコで開催されたシンポジウムのテーマは「Building Resilience Though Disaster Risk Reduction, Response, Recovery Reconstruction in The 2030 Agenda」でした。今回の会議は10個のパネルに分けられ、私は「Response, Media and Humanistic Outlook」のパネルで「Impacts of Dark Tourism Following Earthquake in China」をテーマにして発表を行いました。同パネルで、フィリピン、メキシコやフランスの研究者は、文化、メディアにおける防災減災について、それぞれ発表を行いました。メキシコの防災減災にあまり触れたことない私にとって、斬新な知見を得られました。 シンポジウムで講演した学者の方々は、災害分野において、世界的権威であり、講演内容は最新のトピックで興味深いものが多く、非常に勉強になる講演でした。中国の四川省の事例は英語圏の研究者に知られていますが、深く触れたことのない内容のため、本研究が紹介した発展途上国の防災が直面している問題と、ローカルな知恵に多くの関心が寄せられました。 ニュージーランドの教授と、観光復興におけるダークネスから創造的な復興に変る可能性について、様々な意見を交換しました。また Coffee break など、各国の

著名な研究者や、自分と同様の立場である若手研究者達と意見交換をする機会も多く、シンポジウム以外においても有意義な時間を過ごすことができました。

31日のシンポジウム主催者が行ったツアーに参加し、メキシコの国立地震研究センターを見学しました。センターでメキシコの最先端の地震と火山爆発などの災害検測・監視システムを紹介していただいて、過去の災害が発生した時、システムがデータを処理した様子も見ました。メキシコの防災建築技術については、ラボで見学しました。自分の分野の内容ではありませんでしたが、非常に勉強になりました。

今シンポジウムに参加することによって、災害対応中に、脆弱性を軽減させるためのアプローチを多く勉強しました。ローカルな防災と地域連携の防災の重要性も再確認しました。スキル上では、時間が限定された発表及び文字数が限定された論文へうまくまとめる能力を、さらに磨く必要があると感じました。